

岡山医学振興会「特別講義」2018-5-21

2018年1月9日に、医学部3年生に恒例となっている財団主催の特別講義を行った。特別講義の題目は、「AMDAの国際緊急人道支援と相互扶助の世界」で、講師は、菅波茂 AMDA 理事長（昭和47年、岡大医学部卒）であった。

この特別講義は、ウイルス学教室の山田教授から財団が一コマいただき、毎年実施している、山田教授が講義後に、学生から感想文を集めている。以下に2例の代表的感想文を示した、

感想文 1

不言実行が一番だめと思わなかったのが、意外だった。いろいろ分かった。

感想文 2

まず初めに、印象的であったのは助けられる方にもプライドがあるという話であった。AMDAのような活動だけでなく、将来医師として働く上で、自分が助けてあげるといような考え方を持たないように心掛ける必要があると思いました。しかし、これはとても難しいことであるとも思います。災害でのボランティアや人助けの場では、やはりスポンサーシップの考え方をしがちですが、パートナーシップを上手に築き、助ける方も、助けられる方も、気持ち良く行える関係性が大事なのだと思いました。助ける助けられる状態でなくても、違う状況下にいる他人同士、地域同士、国同士の関係の中で、パートナーシップの考えを忘れないことは、とても重要だと思いました。

次に印象的であったことは、有言実行>不言実行 であるということです。日本では、何も言わず黙々と行うことが美德のような考えがありますが、様々な状況下での人間同士の関係を築くには、なぜ行動するのかということをはっきり示し、その上で実行することが大切であると納得しました。

最後に、お金が重要であるということでした。AMDAが現在様々な活動を行い、ボランティアを行えるのは、やはり寄附があつてこそだと思えます。その寄附を集める上でも、パートナーシップの関係を築くことで、お金も集めることが出来ると思いました。

私の感想文についてのコメント

- 1) 感想文 1 のような感想文が 20% 程度ある。医学部には、優秀な学生が入学しているはずだが、これではチョットと思う。医学部生としての自覚をもって欲しい。演者にも失礼ではないか。また、日頃から考えをまとめる、要領よく書く練習も必要であろう。医学部はまじめに入学試験をやっているのでしょうか。
- 2) これ日本語？アラビア語では？と思えるよう字で書かれた感想文が約 10% あった。個人のメモではない。読み手に情報を伝えることが出来なくては意味がない。へたの字でも、丁寧に書いて欲しい。
- 3) 誤字が目立つ。管波先生（正：菅波）、講議（講義）、寄与（寄附）、姿整（姿勢）など、多数。
- 4) 感想文 2：良くかけていると思う。段落に分けられ、それぞれの段落で書き手の考えがまとめられている。このように、段落をつくり、書き進められた感想文は極めて少なかった。段落をつくってを書くことは文章作成法の基本である。